

かなざわちゅうおう

金沢中央地区 (三期)

(石川県金沢市)

- 計 画 期 間 平成 26 年度～令和 2 年度
- 面 積 860 h a
- 交付対象事業費 8,825.2 百万円
- 市人口 447,209 人

ポイント 北陸新幹線開業後の、地区内における交通結節機能の向上と景観形成や交流空間の整備により、交流拠点として魅力を高める。

地区概要 無電柱化整備や建築物のライトアップなど、金沢らしい伝統景観を保全し、金沢の建築文化の拠点を整備することにより、まちに人を呼び込み、中心市街地の活性化を図る。

目 標 誰もが暮らしやすく、にぎわいと交流が生まれ、過度に自動車に依存しない中心市街地を目指す。

指 標

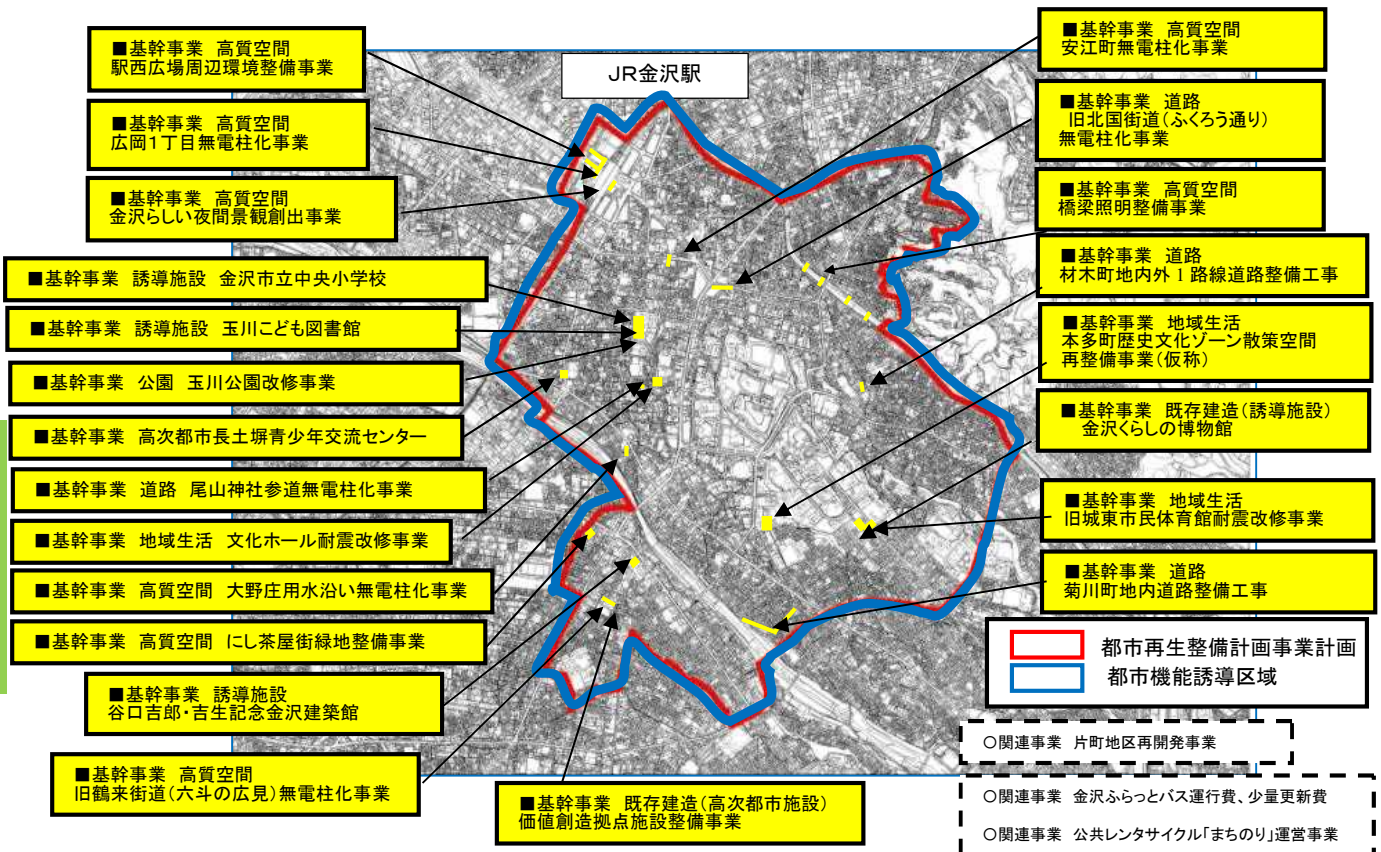
定住と交流の促進結果を測る指標として、社会動態（定住）、主要商業地の歩行者通行量、金澤町家の再生活用件数、外国人入り込み客数を設定。

45 歳未満人口の年間社会動態	平均 94 人/年(H24～H27) → 平均△23 人/年(H30～R2)
主要商業地の歩行者通行量	平均 110,000 人/日(H24～H27)→平均 102,537 人/日(H29～R2)
金澤町家の再生活用件数	平均 8/件(H24～H27) → 平均 12.7 件/年(H29～R2)
外国人入り込み客数	256,000 人/年(H27) → 613,000 人/年(R1)

事業内容

基幹事業(8,613.2 百万円)→道路(幅員 3m～11m、延長 1,150m)、公園(1 か所 9,699 m²)、緑地(2 か所 3,256 m²)、地域防災施設(2 か所)、電線類地中化(延長 860m)、既存施設リニューアル(2 か所)、橋梁照明施設(4 橋)、地域交流センター(1 か所)、誘導施設(3 か所)

完了地区 石川県



地区の現況と課題

金沢城址を中心とした藩政期の城下町区域であるとともに、市内交通の要衝にあたり、業務・居住機能や公益施設等が集積している地区である。しかし、郊外部への大型店舗の進出や都心部の交通渋滞、人口のドーナツ化現象に伴い、都心部の空洞化が進行し、まちなか定住人口の減少や商店数・事業所数の減少など都心活力が低下しつつあった。

1期及び2期都市再生整備計画において各種事業を推進してきたことにより、地区内人口及び歩行者通行量の下げ止まり傾向が見られ始めていることから、更なるまちなかの魅力向上に寄与する各種事業を継続して展開していく。



金沢市中心市街地

計画策定プロセス

本計画の上位計画として中心市街地活性化基本計画が策定されており、以下プロセスを踏まえている。

実施事業の進捗状況の把握

統計資料の分析により前回の基本計画（5年間）における事業の成果を集計し、効果を検証した。

市民アンケートの実施

前回基本計画の市民評価や今後の中心市街地に必要な要素、まちづくりへの参加意識などの調査を行った。

金沢市市街地活性化推進委員会による審議

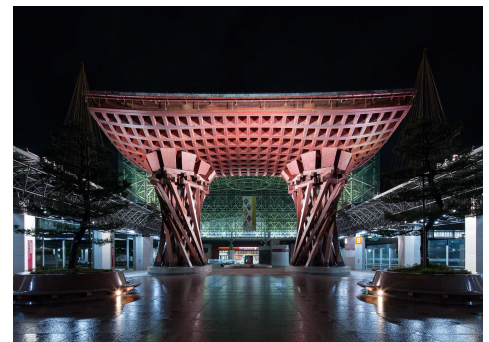
経済界、商業者、学識経験者、市民等で構成された委員会によりアンケート結果や前回計画の成果を審議し、その策定課程を公開することによりパブリックコメントの導入を図りながら、新たな基本計画を策定した。

< 1期、2期計画を踏まえ >

1期計画（H16～20）、2期計画（H21～25）と継続して計画を推進してきた成果を今後も持続させる必要がある。

3期計画においては、北陸新幹線開業後も引き続き、歴史的まちなみや建造物群の保存、無電柱化、用水沿いの修景整備により、まちの魅力向上を図っていく。

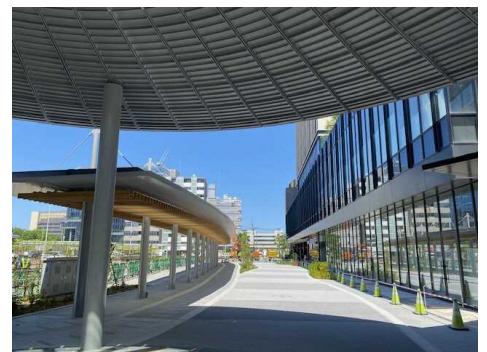
また、まちなかでは依然として駐車場、空き地などの低未利用地が存在していることから、これらを住宅地等への転換を図る施策を推進していくこととする。



金沢らしい夜間景観創出事業（金沢駅東広場鼓門）



谷口吉郎・吉生記念金沢建築館



金沢駅西広場